

11月の園だより

2019年11月

園長 野田弘之

主 題：感謝する

聖書の言葉：「成長させてくださったのは神です」

(第1 コリント3：6)

朝夕はめっきり涼しくなり、2学期も半ばになってまいりました。子どもたちは、いろいろな行事を体験するたびに少しずつ少しずつ成長しています。ついこの間まで、何かあるとめそめそしていた子が、自信をもってするようになったり、人の後ろにかくれがちだった子が、堂々とあいさつできるようになったりなど、園児の成長を見ていると、幼稚園で働く者としての喜びをつくづく感じることでです。

さて今回は、キリスト教の基本的なことについて、お話したいと思います。吉野幼稚園の母体となっているカトリックは、キリスト教の一派です。キリスト教には他にプロテスタントやギリシャ正教などがあります。もともとは、今から2000年以上前にベツレヘム（中近東）でお生まれになったイエズス様が、神の国の福音を説き、罪のある人間を救うために自ら十字架にかけられ、復活したという事実を信じることから始まった宗教で、その後、いろいろな理由から宗派が分かれ、今に至っています。全世界でのキリスト教の信者数は、22億人を超え、すべての宗教の中で最も多いです。

「カトリック」は、一番古くからある宗派で、「公でひとつ」という意味です。それは世界中の信徒が同じ信仰を持ち、同じミサに参加し、一つの体であることを意味しています。

カトリックの聖職者は独身男性で司祭（神父）と呼ばれます。プロテスタントは牧師（先生）と呼ばれ、結婚している人もいますし、女性の牧師もいます。カトリックの総本山はローマのバチカンです。バチカンにはフランシスコ教皇とともに、顧問である枢機卿と呼ばれる方々もおられます。今月、フランシスコ教皇が来日することが決まっています。

また、カトリックには修道院で共同生活を行う修道士（ブラザー）や修道女（シスター）がおられ、その中には人里離れた観想修道院で終生住む人もいます。また、多くの修道会は世の中のために社会福祉活動や教育活動などを行って、社会に貢献しているところもあります。鹿児島で身近なところでは、ラサール学園や純心学園などは、カトリックの修道会が母体となっている学校です。

私たちの吉野幼稚園もカトリック鹿児島司教区が母体となっています。本園では、キリスト教（カトリック）の愛の精神に基づいて、園児一人ひとりの人格を尊敬と愛情をもって受け止め、保育活動を進めて参りたいと思います。その具体的な方法として、日常的なお祈りや聖堂訪問、モンテッソーリ教育等を進めていきます。ご家庭でも、朝晩や食前食後などでお祈りをさせていただき、園と連携をとっていただくとありがたいです。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう。

(1)